



## 三条 税務署長賞

### 『無知な私とある本』

新潟県立三条商業高等学校 三年 田代 杏

たしろ あん

私はよく図書館に行きます。その時、ふと目についた漫画がありました。それは「税金で買った本」という本でした。その時の私はよくわからなかったため読むことはありませんでした。ですが今回、作文を書く際に読んでみようと思い購入しました。この本は、小学生以降図書館に行っていないなかった主人公が訳あって図書館でアルバイトをするお話です。この本を読み私は図書館の税について作文を書こうと思いました。

私が調べた図書館に使われている税は、国税や都道府県税、市税などから費用を出しています。そこから新しい本を買ったり、本を読んだり勉強したりするためのいすや机、コンセントやエアコンなどの費用はすべて税金で賄われています。「税金で買った本」の一卷では、支払っている税金の元を取ろうと本を読まずにスマホやゲーム機の充電だけをしに毎日居座っている男の子の話がありました。図書館で元を取ろうと考えたことがなかったの

した。

私たちはまだ税金を消費税くらいしか払っていないため、税金の使い道をあまり深く考えていませんでしたが、こういった考え方もあると思いました。私も正直図書館に税金をかけるくらいなら、地域にもっと大きな商業施設や某テーマパークを建てるために税金をかけてほしいと思いました。ですが今回この本を読み、図書館には大切な役割があると思いました。例えば、たくさんの本を読み知識を深めたいと考える人や昔読んだ本を見つけたくて図書館に探しに来る人、ただ単に暇つぶしに読みに来る人、様々な人が気軽に利用できたり快適に過ごすことができたり知識を深めることもできる場所なのだと思います。

私たち若者は、税金や円安問題といった堅苦しい話題に興味を示そうとしません。それは、説明されてもよく理解できなかったり、つまらないと感じたりするからです。ですが私が小さいころに漫画やアニメでこういった話題を取り上げてくれるところからの日本にとって大切なことであると実感することができ、興味を湧いてきます。

未成年から成人になるのは遅いようで早く成人になってからどういった税金を払うかなどの経済的課題をしても遅いと感じるため、もっと早い段階で知ろうとすることが大切です。だからこそ今回取り上げた、「税金で買った本」などを読み、税金の意味や意義を深く知ることができ、機会を作るべきだと思います。

